

金刀比羅宮への初詣

右城 猛

私が「讃岐のこんぴらさん」で親しまれている金刀比羅宮(ことひらくう)に初詣を始めたのは平成 18 年, 54 歳のときである。理由は 3 つあった。

1 つは厄払い。平成 17 年は私にとって最悪の年であった。1 月 12 日に父が心筋梗塞で突然他界し, その直後の 1 月 26 日には私が糖尿病で入院した。4 月には, ある雑誌に掲載された私の記事に対して読者からクレームが入った。7 月には大学に行っていた娘が大きな交通事故を起こすなど, 災いが次から次へと襲ってきた。見放された運をなんとか引き戻したいと思ったのである。

2 つ目は運動のため。金刀比羅宮に参拝するには 785 段の石段を登らなければならない。糖尿病には良い運動になると考えたのである。

3 つ目はプレガードの普及祈願。平成 14 年に製造・販売を開始したプレガードは, その年に国土交通省の NETIS 登録を受け, 高知県のエコ産業大賞の「大賞」を受賞, 平成 15 年度にはテレビ番組「企業未来・チャレンジ 21」で全国に放映されるなど順調な滑り出しであった。ところが平成 16 年の末に, 車両用防護柵として必要な性能を満たしていないということが土木研究所より指摘された。この問題を何としても解決しなければならない状況に置かれていたのである。

初詣を行った年から私に不運と思われることは起きなくなった。プレガードの問題も無事解決し, 大ヒット商品になった。これらは単なる偶然ではなく, 「こんぴらさん」の御利益と知っている。

以後, 正月には妻と連れだって金比羅参りを欠かさないようにしている。平成 20 年からは本宮だけでなく, さらに 583 段奥に上った所に

ある巖魂(いづたま)神社まで足を伸ばしている。奥社あるいは奥の院と呼ばれている神社である。巖魂神社の海拔は 421m。本宮より 170m も高く, 登るのは結構きつい。

金刀比羅宮に行ってもまず驚かされるのは, 参道の両脇に寄進者の氏名と奉納金額を刻んだ石柱が無数に立てられていること。株式会社セシール社長正岡道一氏などの名前が刻まれた大きい石柱には金一封と刻まれているが, 石柱の大きさからして 1 千万円以上寄進されたのだろうと推測される。

以前は, 私は信仰心の欠片も持っていなかった。しかし最近では, 金比羅参りをすれば必ず願い事が叶うと信じるようになった。

金刀比羅宮には, 毎年たくさんの人々(最近では毎年 100 万人)が参拝し, そして多額の寄進をしている。御利益がなければ, 何百年も信仰が続けられるはずがない。

全体の考案者野口晴哉(のぐちはるちか)の言葉に「念ずれば現ず」というのがある。今の自分は, 過去に自分が思考し, 行動した結果である。自分の「あるべき姿」つまり目標を思考して, 行動すれば目標は必ず実現するという意味である。

初詣で祈願することは, 自分の目標を思考して明確にすることに他ならない。絵馬に書けば, 目標はさらにはっきりする。あとは目標に向けて行動を起こすだけである。

金刀比羅宮には, 参拝者が守らなければならない「金刀比羅本教教憲五条」というものがある。少し長いが全文を紹介する。

自己の生命は遠い祖先の神々に連り, なお子々孫々に繋がる永遠かつ絶対であることを忘れないこと。

自分も神の分身であるから日々祓(はら

いの修行を怠らないで心身共に清浄潔白を保つように勉めること。

不平を言ってはならない。神恩の感謝と歡びを被(はらい)以て一切を処理すること。神人合一の境地に達するためには浄明・正直を旨としなければならない。

人は何れ高かれ低かれ神となるものであるから、高い神となるよう日々の修行を怠ってはならない。

これは「幸せの法則」と言うべきもので、社会の中で上手く生きていくための経験則に他ならない。

初詣で祈願したことが実現するの道理になっている。不思議なことではない。

祈願成就をはたして金一封を金刀比羅宮に寄進することが私の大きい夢である。



駕籠に乗って参詣される老人(H18年1月7日)



365段目にある大門。二層入母屋造で瓦葺の大門は神域の総門。水戸光国の兄・松平頼重候から寄進された。(H18年1月7日)



大門を潜るとすぐ大きな傘をさして飴を売る5軒の店がある。特別に宮域での商いを許された五人百姓。(H19年1月8日)



桜馬場と呼ばれる石畳の道で、大門から150メートル程続く。道の両側に続く玉垣の内には数十株の桜が植えられ、その間に無数の石燈籠が建てられている。(H18年1月7日)



431段 桜馬場西詰銅鳥居(H21年1月4日)



この石段を上った 500 段目が神椿。金一封と彫られた巨大石柱が並んでいる。

(H21 年 1 月 4 日)



628 段目にある旭社。ここは帰路で参拝するのが正しい順番。(H20 年 1 月 6 日)



500 段目の神椿に、銀座資生堂パーラーが経営するレストラン「神椿」がオープン。カフェが満員であったのでトイレだけ借りる。トイレもオシャレ。(H20 年 1 月 6 日)



652 段目にある本宮手水舎。(H18 年 1 月 7 日)



神椿のカフェでコーヒーを飲む。400 円と値段は普通であるが、とても美味しい。地下はレストラン。(H21 年 1 月 4 日)



785 段の石段を登り切ると本宮。(H19 年 1 月 8 日)



神札授与所で「幸福の黄色いお守り」を買う。
(H19年1月8日)



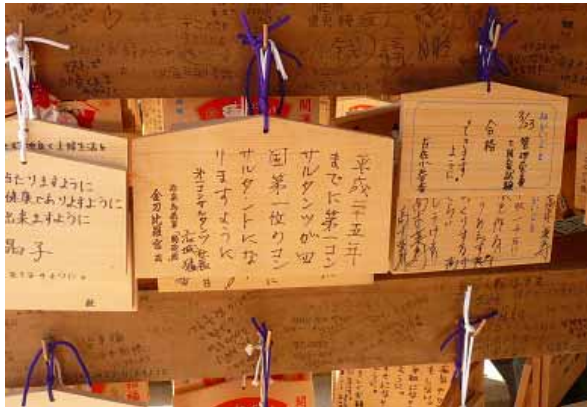
「第一コンサルタンツが日本一になりますように、ロングスパンが大ヒットしますように 第一C社長 右城猛」と絵馬に書いて奉納。
(H21年1月4日)



絵馬を奉納する絵馬殿(H18年1月7日)



境内が清水寺のような構造の本宮。
(H20年1月6日)



「平成25年までに四国第一位のコンサルタントになりますように 第一コンサルタンツ社長 右城猛」と絵馬に書いて奉納。
(H20年1月6日)



奥社から降りてきた神官と巫女の行列。
(H20年1月6日)



白峰神社(H20年1月6日)



二度目の巖魂神社参拝(H21年1月4日)



菅原道真を祀った菅原神社。(H20年1月6日)



巖魂神社境内の地山岩盤の切土面に二つの彫刻。左は烏天狗、右は天狗(H21年1月4日)



1,368段を登り切ると巖魂(いつたま)神社。祭神は巖魂彦命(いつたまひこのみこと)。本宮から583段。海拔421メートル(H20年1月6日)



参拝後には毎年うどんを食べている。(H19年1月8日)

(2009.1.15 記)